

第2回佐久市立中学校運動部活動の地域移行協議会 会議録

日 時：令和5年12月20日（水）

午前9時～11時10分

場 所：佐久市役所 南棟3階会議室

出席者

委員（20名）

原 拓男	識見者（アテネオリンピックバスケットボール競技・女子選手団長、元教育長職務代理）
宮島 卓朗	佐久市立浅間中学校 校長
塚田 直道	佐久市立野沢中学校 校長
北垣内 博	佐久市立中込中学校 校長
芝野 崇	佐久市立東中学校 校長
篠原 利之	佐久市立臼田中学校 教頭（校長代理）
佐藤 元昭	佐久市立浅科中学校 校長
山中 美佳	佐久市立望月中学校 校長
伊坂 倉一	（特非）佐久市スポーツ協会 会長
大塚 寛美	佐久市スポーツ推進委員 会長
篠原 一郎	NPO法人もちづき総合型クラブ 理事長
萩原 和章	NPO法人もちづき総合型クラブ（学校運動部活動指導士）
土屋 岳	岸野スポーツクラブ 会長
原 暁生	佐久平バレーボール協会 総務委員長
澤尾 光弘	佐久バスケットボール協会 理事長
沼田 浩人	佐久サッカー協会（（特非）佐久市スポーツ協会 サッカー部 部長）
塩川 元弘	佐久地区剣道連盟 会長
小林 英明	合唱指導者
萩原 周子	合唱指導者
柿沼 宏直	東信教育事務所 生涯学習課

事務局（10名）

吉岡教育長、堀籠主幹指導主事

依田社会教育部長

スポーツ課 木内課長、三浦スポーツ推進係長、神津

文化振興課 武石文化振興係長、太田

スポーツ協会 吉澤事務局長、井出

1 開 会

2 あいさつ 教育長、原会長より

3 協議事項

(1) 部活動地域移行のアンケート調査について【資料 1-1, 2, 3】

(2) 人材バンクについて【資料 2-1, 2, 3】

(3) 部会について【資料 3-1, 2, 3】

(4) 意見交換

(1) 部活動地域移行のアンケート調査について

資料 1-1, 2, 3 について事務局より説明

【委員】

アンケートを取るということで、長野県の調査を補完するものということだが、具体的にどこを補完するのか不明瞭でないか。県の調査で保護者は金額について負担があるということがはっきりしている。保護者へのアンケートで負担許容金額が出てきた場合、その金額で指導者を何名用意するにはいくらかかるので、令和6年度、7年度に向けて動き出すというような見通しでやっているのか。アンケートの回収率についてはそれほど高くないことが予想されるが、結果はこれで、次はこうしますと次の手が考えられているとよい。特に前回からお金と人が問題になっているのは明らかなので、保護者目線でお金がどうなっているのかが補完されればよいと思うし、それを予算化していただきたい。

もう1点、今日の資料(資料 1-3)「部活動がなくなるって本当??」について、以前勤務していた市町村では文科省に確認して、将来的には部活動がなくなるという言葉ももらい、なくなるからどうするんだということ動き出したときいている。この資料中ほどの「このように部活動がなくなるのではなく」というのは、裏が取れているのか。部活動が将来的にはなくなる、ということ動いているときに、というのはちょっと危ないのではないかと思う。また、地域移行のイメージの右上の4名の指導者のイラストの右端と左端のものは、誤解を招きかねない、自分のために指導をしているようなイメージをもってしまうと思うので変えていただきたいと思う。

(事務局)

予算の関係は今後のことになってくる。必要な人員の数や規模、既存の中学校や減免になる施設では無料でできるかもしれないが、有料の場合もあるので精査していく必要がある。今回は、あまり高額になると保護者の負担も大きくなるので、どのあたりまでであれ

ば許容していただけるのかどうかを探っていきたいと考えている。

部活動の地域移行については、国が進めていることもあり当然県も連動して進めていただいている。市町村教育委員会、いわゆる市町村で全ての金額を負担するという制度であるかという疑問がある。国や県に相応の予算配分を求めていければと思うが、佐久市だけの問題ではないと思っている。また、資料 1-3 の関係について、方向性は未定の部分もあるので、今後については修正させていただく。イラストについても、ちょっと厳しすぎるのではないかとのご指摘なので、工夫して変えていきたい。

(教育長)

資料 1-3 「部活動がなくなるって本当??」について説明申し上げる。去年あたりから保護者から何度もきかれており、新聞にも出ているので「部活動は令和 6 年度でなくなるんですよ」などの質問に対して説明するのに時間がかかった。タイトルについては関心を持ってもらえるような意図でつけている。「このように部活動がなくなるのではなく」との表現は正確ではなく、「すぐには」「段階的に」などとなる。ただ、国、マスコミ、経済界の意向だと聞いているが、文科省の方では指導要領の改訂も含めるので、「なくなる」とは言っていない。将来に向けて、まずは土日からとなっており、平日も完全に部活動をやらないと言い切るのは相当大変で、教育活動の一環として指導要領からなくすという意見が去年くらいにはすごく多かったが、今はそこまででない。そもそも日本のスポーツの歴史は学校の部活動から始まっているという意見の方もいるので、国がもうなくなると決めた方針だとは理解していない。あくまでも少子化対策で子どもたちの活躍の場を探していく方法論を考えていく一つだと考えている。その辺りが上手く表現できるように、このままだと誤解を与えることがあるので、表現は修正する。

【委員】

市として予算を取りたいということは考えているのか。

(事務局)

この協議会で議論が進み、いつごろからできるのかということになればそれに応じていく。国や県の補助がそれまでに制度的に整っているのかということも非常に重要なことである。それが間に合わず市だけでもやっていくという方向性があれば、一旦は市で予算化ということになるが、しかるべき形でということ考えている。

【委員】

何かをやろうとすれば、何でも受益者負担というわけにはいかないの、教育委員会としては市で全額とはいかなくとも多少なりとも予算化することは必要ではないかと思う。

【委員】

2点伺いたいですが、最初に予算的な部分で現状ではこの協議会の事務局はスポーツ課の中にあると思うが、地域移行がどんどん進んでいく状況になったとき、スポーツ課の中で兼任してやっていくことは無理があると思う。そのときにきちっと予算付けして人材確保をする予定があるのかというのが1点。

もう1点アンケートについて、教育委員会スポーツ課と学校が連携して、アンケートの回収率を上げる為、総合学習の時間などを利用してアンケートの回収を求めるといような方法を取ると回収率は上がると思うが、生徒などに任せてアンケートをすると県のアンケートと同じような非常に低い回答率になってしまうと思われる。どのように考えているか。

（事務局）

職員について、スポーツ課では兼務ということになっており、専任の職員はいない。今後競技の数など幅が広がっていく段階になれば専任の職員について考えていかなければならない。また、文化部についても考えていきたい。

アンケートの回収率向上については学校の状況を聞きながら、総合学習の時間以外でも朝の学活の時間なども含めて協力をいただきながら進めていきたい。

【委員】

アンケートの質問で中学生の部活加入におけるミスマッチについて把握したいという話があったが、どのようなところからミスマッチが起きているか予測のようなものは考えているか。

（事務局）

ミスマッチに関して、本来やりたかった部活が学校になかったということ把握したい。以前の協議会の中でも剣道の話があり、東中学校、臼田中学校、中込中学校には剣道部がないという現実があり、小学校ではスポーツ少年団でやっていたが思い通りの部活に入部できないという話があった。そのような学校を含めてやりたい部活について調査をするための質問である。

【委員】

やりたい部活がなかったというところをもう少し深掘して考えていくと、その学校の規模によって部活動の数が選べない、選べないからやりたい部活動がなかったということになると思う。学校名や地域を答える枠がないとなぜ少ないのか、どういうことになっているのかわかりづらいと思うので、地域や学校名を答える枠があるとそのあたりがはっきりして来るのではないかと思う。

また、資料 1-1 に用語の定義があり、アンケートの方にも用語の定義や説明があるが、アンケートの方は説明が分かりにくいので資料 1-1 にある用語の定義を使用していただけの方がよいと思う。他にもいくつか気が付いたところがあるが、どのように伝えればよいか。

(事務局)

1 点目の学校、地域の特定については具体的に踏み込んだ調査になってくるが、逆に特定しない方がよい面もあるので、実施までに検討していく。また、用語の定義について、細かな点まで見ていただいてありがたい。この会議終了後でも結構なので、ご指摘いただきたい。メールでも電話でも結構なので、できれば年内にいただければと思う。

(2) 人材バンクについて

資料 2-1, 2, 3 について事務局より説明

【委員】

指導者の人材バンクということで、研修受講を必須とするとても大事な視点だと思うが、例えばスポーツの指導者資格について、コーチ 1 など色々な種目によってある。そういったものを取得する際には研修等があるが、そのようなものを持っている方も佐久市の人材バンク登録の際に必須の研修等については、一部コンプライアンス的なものなど重なる部分があるが全ての研修に参加する必要があるのか。例えば種目毎に登録をしていく上で、指導者資格の有無などを将来的に目指していくのか。我々協会側から、地域移行が動き出した際に指導に当たる方にはぜひこういう資格を目指して取っていただきたいと依頼をしていかないと指導者の質が向上していかない。協会の研修も、佐久市の研修も全部出てください、となると負担が発生するので、どのように考えているか教えていただきたい。

(事務局)

競技によって研修体制やライセンスなどまちまちだと思う。県のレベルで、地区レベルでやっているなど様々。一旦は佐久市の人材バンクとしての研修を 1 回は受けていただき、共通の認識というものを持っていただいた上で進めていきたいという思いがある。全ての研修に出席を求めることは想定していないが、共通認識を持って子ども達を見てもらうことを考えている。現場の先生方も授業を持ちながら兼職兼業で指導にあたっていただくためにこの人材バンクに登録をお願いする形になると思うが、できるだけ負担にならないようにしながらも共通認識を持つために参加していただきたい。部活動指導員については県で研修会も行っていると伺っているので、そのようなところも活用し、情報を得ながらやっていければと思っている。

【委員】

大会などを見に行くと、バスケットボールではライセンスを持っていないとベンチに入れないシステムになっているが、それにもかかわらずちょっとひどい指導者がいる。そのような面で、最低でも1回は再確認の意味で研修を受けてもらったほうが良いと思う。

【委員】

資料を見ると、登録のため研修を受ける、資格を取るというすごく当たり前のことが書かれているが、研修を受けるにしても時間や負担を費やしていくことになる。人材バンクを立ち上げるならば、お金の話を具体的に示していかないと、いくら文章を作ってもなかなか踏み込んでいかれない。現状では明確なことは答えられないと思うが、どのように考えているか。

(事務局)

研修には負担を強いることになり、皆さんの負担となるのはおっしゃる通り。予算についてはどのような規模で、どのような人材バンクになっていくかということも計りかねているところもあるので、今度の検討課題とさせていただきたい。

(教育長)

私の考え方であるが、教育委員会には予算編成権がない。市の財政課にこうやって協議会で丁寧な議論を重ねて細かくやっていて、これだけの予算がいるという事を作り上げて要求していく。その要求が通る、通らないはあるが、皆がこう思っているという形で要求していくことが佐久市教育委員会の仕事だと思っているので、意見をどんどん挙げていただき、それをまとめて予算を獲得してくる。国でも同じレベルの事をやっており、概算要求をしても予算は3分の1や10分の1になってしまう。お金を取ってくる資料を理念ではなく、現実に即した生の声をきちんと上げてお願いをしていくというスタンスでやっているのだから、ここで色々な意見をいただき資料作成の参考にさせていただければと思うので、よろしくお願ひしたい。

【委員】

地域移行で一番根幹になるのは持続可能な仕組みを作ることだと思っている。指導者不足の関係については、学校側としては必ず兼職兼業が係わってくるので、県や国の予算について請求していかなければと感じている。指導者に関して、人材バンクについては非常に良いと思っており、学校と一緒にやっていくときに先生もそういったシステムの中に入って動いて行くということが非常に大事なかと考えている。

ただ、地域移行が国も県も段階的だという話があるが、平日と休日を分けてやっていくことで弊害が出ると考えている。一番の弊害は大会運営で、教員は平日しか見ていない、地域の方も休日しか見ていない。その中で大会運営は誰がやるのかという問題が出

てくると思っており、本来は基本的には一気にやってしまうのがよい。持続可能にするために、平日の部活動は16時から18時ではなく18時から20時といった形に一気に切り替えて地域に移行する。また、部活動参加希望の先生たちは人材バンクに登録して地域の一員として動く。学校側は参加する先生たちに兼職兼業の承認をするといった方向付けが正しいと考えている。休日移行の段階では大会運営が大きな課題になると思っている、その検討を同時にやっていく必要があると考える。

(事務局)

一気に移行というのは区切りの良さというのは非常にあろうかと思うが、競技毎の特性などもあり全てを整えて平日も休日も一気にという形なのか、競技毎になのかということもあるので、相対的に最終的には判断させていただくことになる。また、大会運営については、中体連が主となってやっている競技がほとんどだと思うが、そういったところの大会運営がどうなっていくかについて、当然市教育委員会の開催ではないところもあるので、そのあたりの動向も聞きながらよりよい方向でやっていきたい。

また、一点ご相談で、人材バンクの名称を「佐久市地域指導スタッフ人材バンク（仮称）」ということで付けているが、部活動指導をしていただく地域の方を誰に頼んでいいかわからない、というような状況もあると伺っている。平日の部活動もこの人材バンクがあれば活用してもらえるように、「地域」は取ってしまい「佐久市」も当然なので取り除き「部活動指導スタッフ人材バンク」ということをご提案したいと思うが、いかがか。

【委員】

良い名称があれば事務局にお伝えいただき、無いようであれば事務局から提案のあった名称で進めていきたい。

(3) 部会について

資料 3-1, 2, 3 について事務局より説明

【委員】

指導者講習の件について、剣道連盟でやっているのはもちろんだが、佐久市の人材バンクでの研修はどのようになっているのか。

(事務局)

各競技の研修はもちろんのこと、それにプラスアルファで人材バンクの研修がある。人材バンクはこれから立ち上がっていく状況なので、両方受けていただければと思っている。剣道は剣道で独自に進めている。

【委員】

おそらく他の部についても自分たちの研修はやっているはずなので、そちらとは別で市のバンクに登録する際には1回は受講していただくということで、お願いしたい。

【委員】

部会の設置に関して、これからやっていかなければと思っているが、実施するにあたっての費用、例えば会議場所の費用、謝礼負担などについて、これから随時部会を行っていくとしたとき、どこから捻出するのか。地域移行の準備段階では受益者負担ということはできないと思う。バレーボールも動かなければと準備をしていく中、そのあたりをどうしていけばよいのか。佐久市についてのことになるので、協会の費用というわけにいかない。そこを踏まえてどうしたらいいか教えていただければと思う。

(事務局)

これから部会を立ち上げていく、令和5、6年度について、佐久市では費用弁償や日当の予算はない。剣道の部会の事例があったが、剣道の方では会議を持っていただいてそのような議論を進めていただいて、市の職員もお邪魔しながら一緒に話をしていたという経過がある。競技毎に状況は違うかもしれないが、競技毎の会議や指導の前後などでも連絡をいただければ必要に応じて参加させていただきたい。費用面について、現在は予算を持っていないので、独自に開催するというのであればご負担をお願いすることになってしまう。しかし、そういった声が多くなれば教育長から予算要求の話があったように、必要に応じて補正等も考えられるので、皆さんの声をお聞きしながら全体の流れを把握して判断したいと思っている。

(事務局)

剣道に関しては佐久市をモデルに地域移行をやっているが、佐久地区剣道連盟としてやっているの、やがて南佐久北佐久全て含めてやっていく。先行事例として佐久市がやっていく中で、佐久地区剣道連盟がそのような会合を開く時には県立武道館の会議室などを借りてやっているが、その費用については連盟から出してやっている。

【委員】

これは難しい面があって、バレーボールで言うと、各市町村で地域移行の準備を進めている。協会として準備をしていくとなると、佐久地区全体で見た時に、将来的にそれぞれのところが統合されていくのが見通せない状態。また中学校の顧問の先生に入ってもらうのに、協会に所属されていない先生方もいる。協会員であればバレーボール協会から費用を出すことは会議への参加ということで可能だが、そうでない先生には市から日当の必要があるのではないか。また、場所については可能であれば佐久市の施設であれば減免という形で認めていただければと思う。

いずれにしても、協会に所属されていない先生方へ協会から支払いをするのがいいのかどうかという部分は疑問が残る。なかなか承服しかねる部分があるのが現実である。

(教育長)

去年から競技ごとにやっていくということ、佐久市としては他市町村と違って統一的にやるのではないというのは、このような個別の事例があるからである。資料3-3のように剣道はまとめてあるが、今後について、懸念事項などこれを参考にさせていただき、バレーでも今はこうなっていてというところを次の協議会に出していただく。すると、会場の減免もやらなければいけないし、議論を詰めていくとなると費用弁償やその他の事も、ということになる。先ほどの話でもあるが予算はそのような積み上げで要求する必要がある。佐久市では部会をいつ何回やるのかわからないが、とりあえず予算を付けると、いうことができないが全てが決まっていなくても良い。

それぞれの部の協議で、剣道を参考にさせていただき例えばバレーの現状はどうなっているのか、今後はこのように考えていて指導体制もこうだと、活動場所や費用のことについても他の皆さんからもたくさん出てくると思う。そのあたりのことを書いてこの資料3-3のように出していただいて、地域移行を進めているのでこれだけのお金がかかります、ということで要求していくというイメージを持っている。他の競技も同様である。剣道についてはすでに組織的にやっていただいております、去年から何をどうやって決めていったらいいのか分からないということはあったが、先行事例としてお示ししていただいた。皆さんもこのようにやれというわけではない。現状を把握して、それぞれ特徴があるのでここはこうではないか、など情報交換ができればと考えている。

【委員】

バスケットボール協会も佐久市だけでなく、南北佐久2市2郡で非常に広い。そのような部分についても競技により色々違う。

意見交換に入らせていただき、スポーツだけでなく文化部の関係からもご意見を願いたい。

(4) 意見交換

【委員】

運動系と文化系では違う部分があり、運動部の方が連盟や組織がしっかりしており、文化系は合唱や吹奏楽は少しあるが、みんな一匹狼のように活動しているので、乗り越えていく課題がたくさんある。学校を回ることがあるが、先生方の実情の声をたくさん聞いて行かないと思う。

実例として、例えばAという学校とBという学校があり、Aは指導者がいるが部員が10人しかいない、Bは指導者がいないが部員は大勢いる。合同で休日にやるのはどう

か提案したが、子ども達の考えとして上達することが目的ではなく、仲間でやりたい、という両校の考えがあり合同活動は成立しなかった。ただ、指導者がいないB校の部活にAの先生がたまに行って教えている、ということがあった。関心を持って先生の声や、現状を聞いて行きたいと思う。

【委員】

運動部・スポーツ関係と文化部・音楽関係は似ているところもあるがイコールではない。スポーツは対戦して点数などで勝ち負けを決めるということがあるが、音楽の場合には必ずしもコンクールが全てではない。コンクールに出ないで日常の活動を楽しみながら発表する機会に全てをかけていく、ということもないわけではない。これが地域移行になった場合に、コンクールについてはどのように考えるのか、指導者を指導スタッフに変えていく場合もコンクールに関心があるからやっていきますという場合と、全く関心がないからやりませんよ、という場合も出てくる。

また集まった場合に、合唱は市内2校、吹奏楽はまた別にあるが、活動内容も変わってくる。集まった場合に音楽性もあるのでどこに向けて活動していくのか。吹奏楽については何年か前に中学校のある先生から、高校生まで巻き込んで活動をしていきたいという相談を受けたことがある。中学校を卒業して活動はしたいが高校生になると勉強もあるしコンクールはそんなにやりたくない、でも中学までは楽器の演奏をしてきたので楽しみながら楽器に触れて演奏するような機会があれば嬉しい、という声を受けたが実際には難しい。そのように中学校と離れる部分もあるが、音楽の活動を考えるとこれから乗り越えていかなければならないことも多い、と話を伺うなかで考えてしまう。

【委員】

スポーツで言えば勝利至上主義ではなく、スポーツを楽しみたいという子ども達が絶対にいる。指導者についても絶対勝たなければ、という勝利至上主義の指導者も先生も現実にいる。むしろ勝利至上主義の先生方の方が多いかもしれないが、中には義務教育なのでその勝利至上主義ではなくても、子ども達の上達に喜びを感じられればいいという指導者もいると思う。非常に難しいところだと思う。

【委員】

子どもに対するアンケートを取ってもらうのはありがたいが、以前の意見交換会でも申し上げまだ実行されていないが、現在の各地域スポーツ団体を集めて説明をしてもらいたい。この協議会ではバレーボール、合唱、バスケット、剣道など選り抜かれた役員がいるが、地域によって当然ながらその他にいくつかの競技団体がある。いまだに私のところには、「何がどうなっているのか分からない」など、あらぬ噂が飛んでくる。できれば現在関わっている地域の指導者、あるいは学校の先生、そこに関わる保護者に対して、同じようにアンケートを取るような形で、何が起きているのかを把握した方がいい

と思う。状況が把握できていない中で、部会をやってというのはとてもではない。まずは準備としていろいろな情報収集をする必要がある。一般で集めれば大勢となって混乱すると言われたことがあるが、会場は広く使って文化部もスポーツ競技団体も含めて説明会くらいやるべき。でないと、ここにいる人たち全てがそれぞれの競技に対して知識があるはずがないと思う。それぞれ専門分野で、自分たちはこうしている、例えばこの剣道の場合は今回はモデル事業だからこういうのを出された。だが知らない競技団体は未だ何か起きているか分からず、提案すらできない。であれば、こういう話の内容の説明はこれからでも遅くないと思う。いろんな競技団体に投げかけて、こういうことで部活の地域移行は起きているんだということを理解してもらう必要はあるかと思う。

また剣道の関係について、以前に色々な競技団体に育成会の扱いはどうなっているかという話をした。育成会も子供たちの健全育成のために関わっている一員であり、特に剣道の関係は望月の場合は今少人数だが、元々は育成会が母体でそこから今現在も続いている。しかし、それぞれの分野で何が起きているかわからない。これをはき違えると誤解を招いて、いつまでたっても前に進まないような気がする。ありとあらゆる関係するものが、本気で考えるという形の状況を作っていくことが大切だと思っている。

一つでも具体的にするため、子ども達にアンケートする前に指導者のアンケートをしてもらいたかったくらいである。最初の会議のときには学校側の意見を聞いたが、その時点で受け入れる側の、地域で受けるのだから我々の方が地域の方の実態を把握しておく必要があったはず。この状況の中で、推進期間の3年間の中でまとまるとは思えないが、より良い方向に持っていくならばこれから10年関わる中で良い方向に持っていくため、考えていただきたいと思う。

(事務局)

どうしても各競技で違うという状況も原先生からもお話いただいております、受入れいただくであろう各競技団体のご意見も聞いていく必要があることは認識している。またPTA連合会の保護者の皆さんからも、「どうなってるんだ」「どういう状況なのか」と不安はかなりあった状況。確かに私ども情報の発信が手薄になっていたというのは事実なので、そこをフォローしながらアンケートないし説明会ないしそういったものを前向きに検討したいと思う。

【委員】

資料3-2で、各部会がバスケ、バレー、サッカー、その後ABCとあり、各部会を設置すると書いてあるが、ABCについてはどのように対応しているのか見えてきていない。各部で、といいながら丸投げのような印象で、この図の各部会の上が協議会になっている。ということは剣道の部会で行われていることの責任が出てくる。それから子供や生徒、子供や教職員の動きを誰が把握して誰が責任を取るのかというと、この協議会になってしまうのか。組織体制のイメージで分かりにくいところがあり、早急に対応していかなければ

ならないことが山積みなのかなと思う。

(事務局)

この協議会については、各部競技ごとに状況も異なっており、その情報共有しながら進めていくということを協議会として考えている。また実際に現場の方へ丸投げということでは考えていない。各実情に合わせながら、並走して休日の部活動地域移行を進めていくということは認識している。またちょっとイメージがわかりづらいというところもあるので、補足できるものを検討させていただきたい。

追加で、責任ということがこの協議会でというご意見があったが、こちらの協議会は「こういうやり方で佐久市でやっていく」、という決定機関では決していない。様々な事例など紹介させていただき、より良い方向を協議、議論していただく。そのため名前も協議会となっており、協議や議論していただく場であり、「ここで一気にこうにしよう」「これに決定します」ということもないので、そういった形で各委員さんには議論を進めていただければと思っている。

【委員】

施設面の関係で、例えば先ほど音楽の関係でお話があったが、運動部活動の施設に関して学校はこれから非常に活用できる状況にあると思うが、例えば吹奏楽の音楽室などを考えたときに、3年後までのところでセキュリティ関係等の問題が色々出てくる。

そういった施設の今後出てくる課題、学校施設を使う場合のセキュリティの問題などへの早めの対応が必要なので、また協議会にご意見等いただければと思う。

(事務局)

学校施設の使用については今後も特に文化部の関係が多く出てくると思うので、教育施設課と施設所管部署の方とも協議しながら、進めていきたい。

【委員】

今までの話を聞いていて、この協議会ができるときも言ったが、中学校の部活動を統括して地域移行していくための、いわゆるコーディネーターのような方が必要かなというのは思っている。11月18、19日で北信越5県の総合型クラブの研修があり、やはりそこでもメインは中学校の部活動地域移行の話だった。その中でいくつかの事例発表もあったが、長野県の千曲坂城クラブというところが、地域移行を進めている。ここは教育委員会の中に事務局を作り、その統括コーディネーターが、元小学校の校長先生で山根義夫さんという方。この方が統括コーディネーターとして、部活移行の全部把握しながら行っている。それ以外のところでいうと、近隣の軽井沢町は総合型クラブの専務理事が中心になって、協議を進めており、そういうところが非常にうまく動いている地域移行の事例となっているのが現状。佐久市でこれから進めていくのに、総括的に考えていかなければなかなか難し

い。今のままだと部会ごとに動き始めたときに、それをちゃんと把握しながら統括する人がいないと、この協議会でその全体を統括していくのは非常に無理があり、そんなことをこの会で十分考えていかなければ難しいかなと思っている。

【委員】

私の中学校では現在6つの種目があるが、5年先くらいに学級が1つ減ってしまう見込み。指導する先生の数がまた足りなくなってしまうので、どこかで部活動を1つ削らないと成り立たないというようなことになり、そうするとできる種目が減ってしまうので、子供たちの部活動をどうするかということに繋がっていく。なので、本当はどんな部活がやりたいのか、ないからこれをやっている、というところを把握できるように、アンケートの中でぜひやっていただけるとありがたい。

剣道の事例を見ると、本当に工夫しており1ヶ所に集中集約するというのも、その中でコース制にしてというのも、人数を集めるしかないと言うことがよく分かる。本校には、2名の外部指導者がおり、そのお子さんたちも入っているのもうやむなしだなというところを承知しており、1ヶ所に集約というところを理解していただき進めていただいているのは本当にありがたい。

一方で外に出て行くということは、保護者の送迎の負担にもなり、さらにその指導者への謝金も保護者も出すことになると、かなり負担が大きくなってしまうので、そこら辺も考えていかなければと思う。

また人材バンクについて、コンプライアンスという言葉が何回も出た。例えば教職員の任用について、法令もだいぶ変わってきているため、その人材バンクを希望したらすぐに登録でき、ニーズに合ったところにすぐに紹介してきますような形になるのか、どこかがストッパーの役みたいなどころがあるのか、そこら辺をちょっとまた考えていかなければと思う。

【委員】

最後の人材バンクの件だが、人材バンクでライセンスを取ったからもうこれで安心だっけとわけていけない。人間なのでどこかで失敗してしまうこともあるわけで、ストッパーという考え方も必要なのかもしれないが、それはこの協議会の中でできることではないと思う。バスケットボールであればバスケットボール協会ですらそういうストッパーが必要なかもしれないし、それをこの協議会でというのは少し難しい話だろうと思う。

(事務局)

先ほどご質問のあった、教員の先生を部会に呼んだときの謝礼や交通費のようなものについて、せっかく校長先生方がお越しになっているので質問したい。例えば、自分の学校に通う子供たちのためにその部会を構成し、話し合いに参加する場合は、職務的な範疇ではないかと思うが、謝礼については会議などに必要になってくるものか？

【委員】

校長が出張と認めれば、出張命令で旅費が出るが、主催者から出る場合は旅費なしの出張になる。ただ、どこまでが子供のためかというところで、地域移行の会議に本校の職員が行くことを学校の校務としてもいいか、というのは微妙である。

また、今の旅費の関係だと先ほど原先生からお話があった部分で、市の方から各競技団体に地域移行に何とか力を貸してくれないか、という話なので、バレーボール協会がその地域移行でどう受けるかという会合を開くときには、やはり市でその部分を面倒見るべきかなと思った。ただのべつまくなしということもできないので、例えば市の方からこれだけの予算を取るの4回までの会合で何とかここまで進めて欲しいということは必要だと思う。その4回分の交通費ぐらいのところは、協会とか連盟の皆さんに行くような形があれば気持ちよく参加できると思う。

【委員】

部活動の地域移行について問題はたくさんあるが、時間的には限られているので、展開をしていかなければいけない。それぞれの立場の方々がいるのでそれぞれの考えがあるが、学校の立場としてこれからどういう方向が良いのか考えると、必要なのはキーワードとして、時間の問題と、お金の問題、それと権限の問題があると思っている。

このような会議で、それぞれの立場の方の考える課題などがわかってくるので、そういったものを大事にしながら、まとめることも必要だが、学校に任せていく部分も作っていただけるとありがたい。私自身は、どうしてこのような状況が部活動に生まれてきたのかということ、学校の立場でずっと考えている。部活動のあり方を学校はどういうふうにしてきたのか、今子供がどういう状況にあるのか、ということをもう一度洗い出して、学校の教育課程を考えていかなければと思っている。その中で地域の方々をお願いしていくものが明確になってくると思うので、学校もお願いばかりではなくできることは推進していかなければと改めて感じたので、そのところは早く手を打ちたいと思う。子供たちは3年間で卒業していく。保護者も教員もその中でのことしか、ひとところはずっといるわけではないのでなかなか考えられないと思う。喉元過ぎてしまえばということにもなりかねない、また現場も教職員はかなり疲弊している職員もおり、このまま放っておくわけにはいけないので、できることから進めることが必要と感じている。

【委員】

アンケート調査で実態把握していただけると本当にありがたいが、この地域移行での1丁目1番地は教職員の負担軽減で、質の高い学びを生み出したい。保護者、子供向けなので、チームが組めないというような視点から競技に寄せた趣旨であるが、大きな目的の1つは先生方の負担軽減という形で、持続可能な体制を作るようなところもあると思う。先生方の負担軽減というところ、働き方改革の視点もぜひ目的のところにも入れていただくとありがたい。

アンケートの中にあるように、勝ちにこだわるような先生もいるが、そうさせているものもある。「勝って当たり前だ」「なんであのチームに勝てないんだ」、そういった保護者からのプレッシャーがあり、そういうところで本当に苦しいっていうことを漏らしていた先生がいる。そうすると保護者の方が部活動に求めているものは何なのか、ということ把握する必要があると思う。勝つ喜びは大事だが、社会性とかルールとかマナーとか、優先順位というものがあるので、色々な優先順位の違いがあるということの問題提起として明らかにしていくことも1つではないか。

【委員】

勝利至上主義という保護者もいらっしゃるが、一方では別に勝たなくても心身の上達を求める保護者もいるので、非常に難しいところだと思う。

(教育長)

働き方改革のニュアンスも入れるというのは当然のことで、一昨年ぐらいからまずそこから始まっている。教員が大変で、部活指導が大変だというアンケート結果がこんなにあるのでやらないといけない、というのでこうやって話を進めている。しかし地域の方に移行していくと、教員は大変だけどそれを俺たちに負担させるのか、となる。国がお金を出さなかったからそういうことになったが、今は文科省の方も子供たちのスポーツ環境について、少子化で本来やれることもできなくなるので、環境を整えていかなければというニュアンスが今は強くなってきているように感じている。ある企業の方に、例えば指導者バンク登録して休日をお願いしたいというような話をしているが、こちらも忙しいけど先生方のために無料でやるのか、とすごいシビアに怒られたこともある。ちょっとニュアンスの問題はあるが、一番は子供の少子化への対応かなと思っている。決して教員の働き方のこともないがしろにしているつもりではないが、そんな事情があつて資料は書き方がこのようになっている。

統括コーディネーターというのはその通りの話で、どういう人が務め、このような協議会が色々ある中で統括を果たしてやっていけるのか。まず学校に行つて、競技団体に行つてと本当に1年中走り回っていないとできない。国が本気でやるつもりなら、きちんと人をつけてやらないと地域は混乱しているだけということのを他のところからも聞いている。佐久市の中でも、地域移行プロジェクトチームがあり、そこに3、4人がいてやらなければいけないくらいの内容量だというふうに思っている。そういう意見も出たということも持ち上げて何とかそういう体制を佐久市で作りたい。予算的なものも色々なところで話をしていかなければというふうに思っている。

教育委員会は色々な問題多くあるが、これは答えのない問題ばかりである。正解がなく、色々なところで色々な人がいて事情が全部違う。色々な方がそれこそ学校でやっているように、主体的で、協同的で対話的で、深い協議が今日はとてもできていると改めて思っている。

もう1つ付け加えると資料3-3の剣道の例のように、協議会で1つの基準を作って、このスポーツはこれまでこうやっているのだから、こうやれ、というような地域移行は、競技ごとの特性があまりにも違いすぎるので、できないと思っている。しかし、例えば保護者が小学校から中学校に行くときにどうするかな、というときに資料3-3のようなものがあり競技団体ごとに全部ホームページに載っていると、剣道は通う中学校にないが、ここに行けばできるのかという情報提供が、この協議会でもやれることかなとは思っている。例えば部員数の資料などは市で作ることができるので、この協議会はそれぞれの競技団体の代表の方に出てきていただいているので、それ以外の部分を参考にさせていただいて作る。これを揃えるだけでも、この協議会のやり方というのはありかなというふうに思っている。説明会というご意見もあったが、今この状態で説明会を開いてもうまく伝えるものがない。だから保護者の方だとかに説明したときには、例えばこういうものが佐久市の中では全部のほぼ競技別に網羅してある、と説明できる。これをまずはやりながら、あるいは合同部活動的なものになりながら、将来的には学校ではなくて地域のところに出かけて行って、そこでやるドイツ型のような、何十年もやっている形になれば一番いいかなと思う。今は過渡期なので、ぜひ色々なご意見をいただいて、それぞれの協会・連盟なりに帰っていただいて、ご説明いただければありがたいと思っている。

大変本当に参考になるご意見を多数いただきありがとうございました。

4 その他

【委員】

佐久市には、各協会というのが今日来ている皆さんの所以外にもたくさんある。ある程度、各協会長に集まっていただいて、こういう事を説明して協議してもらおう。そういうことが一番早い道ではないかなと思う。

また、これから年明けにおいて新年会など行事があるので、事務局の誰か行ってこういうことがあるんだということを説明することも大事なので、その辺も考えていただければありがたい。

5 閉会